

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000986		
法人名	ミツモトハウス株式会社		
事業所名	グループホーム あすなるの家		
所在地	小樽市幸2丁目22-3 (電話) 0134-21-6800		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】 (19年4月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	1～2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷金	有 (円)	無	暖房費 10,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (11月22日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	5名	要介護2	7名
要介護3	6名	要介護4	
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 77.8 歳	最低 72 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋医院、おたるイヤクリニック、兵藤歯科、三ツ山病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅街の中に位置する新しいグループホームで、高台に位置するため眺めがよく生活環境に優れている。ホーム内は家庭的で設備や間取りも申し分なく、併設する小規模多機能施設との連携、交流も活発に行なわれている。家族への「お便り」や報告がカラフルな書式できめ細かく行なわれており、介護計画やアセスメントの書類も丁寧に作られている。ホーム内は衛生的で、衛生管理や消毒などに努力されている。入居者や職員は明るく過ごしている。栄養バランスに配慮された食事が提供され、医療機関の支援体制も充実している。地域との交流も徐々に活発化してきている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 手すりの設置、救急救命訓練の受講、換気の励行、危険物の管理など、前年の指摘事項はいずれも改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対して職員全体で意見を出し取り組んでいる。職員全員で出し合った意見を主任、ホーム長、施設長が整理し評価結果をホールに掲示している。いつでも誰もがみることができ、評価結果を全職員が共有している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2カ月に1度開催し、グループホームの説明、地域との関わりなどについて活発に意見交換しており、議事録も作成している。外部評価についても今後話し合う予定としている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時や電話での報告の際に意見をもらっている。運営推進会議に家族の代表に参加して頂いている。また重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事に参加したり、唄のボランティアの方が着てくれたりしている。また、「あすなる祭り」という事業所行事への地域住民参加など地域との関係作りに積極的である。下の階の小規模多機能の利用者との交流も活発である。地域密着型サービスとして、老人会の方の介護相談を実施するなど地域生活を支える場になるように取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中に「地域社会の中で信頼され、ふれあいのできるホームを目指す」という内容があり、地域住民との交流を図っている。運営理念を全職員で話し合い、一度改正している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念はホーム内の見やすい場所に掲示されている。入社時によく説明し、毎回「あすなるだより」に理念を載せるなど管理者と職員が理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事に参加したり、唄のボランティアの方が来てくれたりしている。運営推進会議には毎回町内会長の参加があり、老人会への介護相談も実施している。事業所行事への地域住民の参加や下の階の小規模多機能の利用者との交流も活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	手すりの設置、救急救命訓練の受講、換気の励行、危険物の管理など、前年の指摘事項はいずれも改善されている。今回の自己評価に対して職員全体で意見を出し取り組んでいる。		

小樽市 グループホーム あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1度開催し、グループホームの説明、地域との係わりなどについて活発に意見交換しており、議事録も作成している。外部評価についても今後話し合う予定としている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム協議会に参加しており、その際に市の担当者と情報交換している。何かある場合は市に相談しており連絡を密にしている。市役所にパンフレットを置かせてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「ホームだより」のほか、一人ひとりの「生活のようす」を毎月作成し家族に送付している。それぞれカラーの大変読みやすい作りであり、充実している。金銭出納報告も毎月行なっている。受診の報告も適切に行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話での報告の際に意見をもらっている。運営推進会議に家族の代表に参加して頂いている。また、重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少なくなるように努力し、異動する場合はできるだけ引き継ぎ期間を設けている。担当者が敷地内の他のホームや小規模多機能に異動する場合は、異動後も交流を持っている。		

小樽市 グループホーム あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	体操や防災、歯の健康などの社内勉強会を行なっている。外部研修への参加は増えてきているがまだ少なく、職員の段階に応じた計画的な研修への参加とまでは至っていない。	○	職員を段階に応じて育成するための計画を立てるとともに、法人内外の研修を受ける機会の増加を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム協議会に参加しているほか、特に親しいグループホームとの交流を行い、情報交換を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者に複数回会いに行き、親しくなるようにしている。訪問の際には利用者の生活習慣など細かく情報収集し、アセスメントされ、馴染めるように努力、工夫がされている。また、入居前に利用者や家族がホームを見学し、十分に納得したうえで入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の性格や過去の生活歴を把握したうえで話し掛けており、利用者一人ひとりに料理の作り方や掃除の仕方など教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の情報を細かく入手し、16項目の課題分析シートを作成し把握に努めている。日常の中で本人の情報を得たり、意向を聞くような場面作りを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握し、ユニット全体で意見交換を行ない介護計画を作成している。アセスメントにもとづいたきめ細かい計画が作成されている。介護計画作成後、家族に同意の印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	各ユニット毎月3人ずつ見直しが行われ、その結果、各個人は3ヵ月ごとに介護計画を見直している。介護計画の内容も評価の結果よりフィードバックされた、個別的、具体的で一連の流れが理解できる計画となっている。そのほか必要な場合はその都度作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設する小規模多機能との交流を活発に行なっている。必要に応じて小規模多機能のお風呂や車を利用するなど柔軟な支援を行なっている。		

小樽市 グループホーム あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、2つの提携医療機関の往診を受けている。利用者や家族が希望する医療機関の受診支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームと医療機関の間ではある程度方針の共有がなされているが、本人や家族との重度化や終末期に向けた方針の共有は十分とはいえない。	○	入居時や早い段階で本人や家族及び職員が方針の共有ができるよう、話し合いの実施や覚書の締結を行なうことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けや対応を行なっている。記録等の個人情報も適切に取り扱っている。本人の写真を「おたより」に載せることについて家族から同意をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、食事や入浴、レクリエーションを行なってもらっている。入居者は楽しそうに絵を描いたり遊びや手伝いを行なっている。		

小樽市 グループホーム あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで楽しく会話しながら食事を行なっている。準備や後片付けを入居者に手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週二回の入浴日にほぼ全員が入浴しており、順番も希望に添っている。ほかの日でも併設する小規模多機能施設で入浴が可能である。入浴を拒否する場合は清拭を行なうなどの対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はそれぞれ、食器洗い、すすぎ、おしぼりたたみ、手すり消毒、モップ掛けなど役割を持っている。ホーム内に遊び道具や趣味の品を置いている。ドライブや外食などで気晴らしを行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物に出掛けるほか、行事で外出する機会を設けている。ホームの車を利用して通院支援、外出支援も行なっている。敷地内の畑仕事や飼っている動物（犬や鶏）の世話を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵を掛けることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していない。外出する可能性のある入居者に気を配っている。		

小樽市 グループホーム あすなろの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	12月に避難訓練を実施する予定としている。地域の方に協力を得られるような働き掛けはまだ行っていない。災害時の備品（非常食、水など）の準備も十分とはいえない。	○	定期的な消防訓練、設備点検の実施、運営推進会議を通じた近隣への協力の働き掛け、防災備品の準備など今後の取り組みに期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が栄養バランスを考えて献立を作成しており、水分量、食事量も把握し、調整されている。米飯はやわらかめが好みであるなど、習慣に応じた支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔でゆったりしている。家具や調度品も家庭的なものが使われている。利用者の生活に密着した物品も置かれ、落ち着いたなごやかな雰囲気を作っている。生活感の出しづらい鏡には花で囲むなどの工夫がされている。臭いや音量も問題ない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各利用者の使い慣れた馴染みのものが持ち込まれ、自作品を飾るなど安心して過ごせる場所になっている。また、入り口ののれんは、和風、洋風とおのおのの好みのものが使用され、居心地よく過ごせる工夫をしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。